

女性のエンパワメントと教育の役割

天童 睦子

毎春、卒業を間近に控えた学生が「大学で女性学を学べてよかった」との感想を届けてくれる。宮城にある女子大学で、初年次向けの「女性と人権」で女性学入門を、また4年間にわたるキャリア教育で、生き方の自己決定や女性のキャリア形成を考える授業を実践している。学生たちとの語り合いは、私自身の学びのプロセスを思い起こすときでもある。

1990年代、当時30代後半だった私は、専業主婦でいることの閉塞感、再就職の困難と苛立ち、数々の社会の壁を感じ、自分の人生が見い出せずにいた。女性に典型的な「再チャレンジの苦労」を経験しながら、一念発起して大学院に再入学した。学ぶことは生き直すことのような覚悟があった。その中で、出合ったことが「ジェンダー」。ジェンダー視点で世の中を見渡すと、自分が社会に出てから経験した苦い思いや子育て期の孤立、その背景にある社会・文化構造を覆う霧が一気に晴れる気がした。暗黙の性差別や、職場、地域、学校、家庭でのジェンダー体制が、女性の生き方を制限し、女性を周辺化し、ジェンダーの序列化を生み出していることが身をもってわかった。

いま、私の講義を聴く学生たちの多くは、思春期に大震災を経験し、喪失と我慢の日常化を余儀なくされた世代である。彼女たちには、女性学やキャリア教育を通して、自分らしく生きること、声を上げてよいのだということ、ときに思うようにことが進まず心が沈み込むような時期があっても、人生のシナリオは何度でも書き直せると、エンパワメントにつながる道を伝えている。

目前の問題は刻々と変わるが、その背景にあるジェンダー問題を見極め、不平等の是正、解決の道をひらくには、学校教育にとどまらず、子育て期から生涯教育を含め、人々が生きる場を取り巻く教育環境、文化環境の検討が重要となる。そして、教育にも、復興のプロセスにも、ひそかな不平等の再生産に気づくためのジェンダーに敏感(gender sensitive)な視点が欠かせない。教育は女性のエンパワメントの鍵なのだ。



PROFILE

てんどうむつこ：宮城学院女子大学教授。女性学、教育社会学、キャリア形成論が専門。子育て期を経て東京女子大学大学院で学ぶ。早稲田大学大学院教育学研究科博士後期課程修了。博士(教育学)。日本教育社会学会理事、国際ジェンダー学会評議員。近著に『女性のエンパワメントと教育の未来』(東信堂、2020)、『キャリアを創る—女性のキャリア形成論入門』(編著、学文社、2021)、『災害女性学をつくる』(共編著、生活思想社、2021)など。